

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771600636		
法人名	有限会社新名防災設備		
事業所名	グループホーム 青い鳥		
所在地	香川県仲多度郡多度津町葛原451-1		
自己評価作成日	平成23年8月10日	評価結果市町受理日	平成25年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を充実させ、その人の希望を叶え、楽しく笑顔で過ごす時間が多い事業所を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3771600636-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成26年8月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

グループホーム・小規模多機能の事業所の他に、認知症対応デイサービスを開設し、それらの事業所を一体的に運営している。周囲には広々とした田圃が広がり、自然環境が豊かな場所に位置し、事業所名の「青い鳥」には「幸せを見つけに行きましょう」との思いが込められていて、その実現に向けて努力している。事務長を中心にして職員間のコミュニケーションは良く、地域密着型の事業所として認知症のケアに力を入れている。一日の日課を決めずに「穏やかに・静かに・ゆっくり」過ごせるように、一人ひとりの毎日の生活を大切にしている。利用者・家族の要望もあり、終末期のあり方について、利用者・家族の意向に沿ったその人らしい最期を迎えられるよう、前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り時に復唱することで、理念を自分自身の行動に活かしている。	地域密着型の事業所として基本理念があり、それを実践に繋げるために、わかりやすく4項目にまとめ文章化している。それが現場の行動規範となり、毎日の申し送り時に復唱し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議やボランティアの受け入れ等により、少しずつではあるが地域の方との交流が増えてきた。また、散歩の時などにも挨拶をすることで、日々の交流の機会を増やしている。 また、自治会の活動にも可能な限り参加している。	ここ数年は自治会の行事に声がかかるようになり、井出ざらえ、草刈等に参加している。日々の散歩時のあいさつや田圃横の即売所で野菜を購入するなど、地域との付き合いが広がりつつある。事業所で認知症サポーター養成講座を開催し、近隣の人も含め40名ほどの参加があった。	今後も継続してサポーター養成講座を開催し、認知症が正しく理解され地域で当たり前になる日が来るように、また事業所が地域の一員として、地域の人が気軽に立ち寄ったり、相互に協力し合う関係が築かれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などを中心に、随時、支援方法等、地域で役割が持てるよう努力している。 先日は認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターの方々と開催した。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告等を行いながら、ご家族等の参加者の意見を取り入れながら、随時、サービスの見直しを行っている。	行政の関係者、家族、地域の人が参加して定期的開催している。写真を使用して利用者の様子や行事の報告をしている。参加者からの意見や質問には、事案によっては改めて話し合いを持つなど、丁寧に応え、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から意見交換を積極的に行い、相談や助言をいただくことで協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議だけでなく、他の場面でも顔を合わせることが多く、町の担当者とは良い関係が築けている。所用もあり、月に2、3回は役所を訪問しており、判断に困る時はすぐに相談することができ、連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全・防犯のために玄関の施錠は行っているが、身体拘束については、マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全・防犯のためと家族の要望もあり、玄関は施錠している。施錠は身体拘束にあたることは自覚しており、昼間時間を決めて開放する努力はしている。生活の中では、布団にしたり、ベッド横にマットを敷くなど工夫して、身体拘束をしないケアを実践している。点滴をするときも傍に付き添って支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	独自のマニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できる状態にある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し、学ぶ機会を持っている。アセスメントなどで個々の必要性については話し合い、活用できるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームでの生活の説明、終末期のケア等を含め、相談の段階より伝えることで理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には近況報告を行い、その時に出た意見や要望に素早かつ確に対応できるよう努めている。また、意見箱の設置も行っている。	意見箱に意見が入ったことはないが、面会に来た時には必ず部屋を訪ねて声をかけている。家族が話しやすいように職員選びやタイミングを見極めるよう配慮している。家族からの要望は日々の生活上の困りごとが多いが、できるだけ応える姿勢で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じ、適時ミーティングを行うことで意見を出し合い、それを基に行事計画等、運営に反映させている。	事務長は常に現場にいるので、職員とコミュニケーションがよくとれている。事務長参加時のミーティングや日常生活の中でも、個々にその都度気づきを伝えることができている。現場レベルの職員だけのミーティングもあり、そこからの意見・要望にもすぐに対応して、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや個人面談を行いながら、一人ひとりの状況に合わせ、目的を持ち、やりがいのある仕事にできるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に合わせた研修への参加を行い、希望者は参加できる体制をとっている。必要な者には個別研修の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で研修をおこなったり、相互評価を行うことで交流を深め、良いところは取り入れることにより、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に時間をかけ、アセスメントや担当者会議を行うことで、本人、家族の要望を把握し、見学や体験利用を通し、スムーズにサービスに繋がるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの説明を十分にした上で、希望や不安点を伺い、利用形態の提案を行うことで良い関係が築けるよう努めている。利用前に体験利用を行うなど、その方の状態に合わせて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、その人にあった必要なサービスが提案、提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各種行事や活動と一緒にいながら、利用者様の知恵や知識を職員は学び、共に生活することの喜びを共有しながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内での生活の状況を伝えたりしながら、家族と事業所が協力して、利用者様が有意義な生活を送れるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊の支援を行い、面会時には家族との時間がゆっくりと持てる環境を提供している。	家族・親戚・友人の面会時はゆっくりと過ごしてもらうよう配慮している。協力が可能な家族にはお墓参りの外出や外泊をお願いし、家族との関係が続くよう支援している。また、スタッフと馴染みのある公園や外食に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域における利用者様同士の関係を把握し、互いに関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談依頼は継続的に関わり、適時支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でゆっくりと向き合える時間を作り、なにげない言葉や表情を読み取り、本人の思いに添えるよう努めている。	職員は長年勤務している人が多く、全利用者の好物や好きなことは把握できている。日常生活の中で見せる表情や言葉、家族に聞いたこと、また以前の生活から推し量り、多分こういう思いだろうと把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人、家族の話から得た情報を職員間で共有し、可能な限りサービスに取り入れ、環境の大きな変化がないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族等、関係者の方から十分な確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、随時関係者の意見を取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	本人、家族と関係者が話し合い、介護支援専門員が本人の意向や現場の意見が反映されたケアプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、現場スタッフより状況を聞き、目で確認している。状態に変化がある時は見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて日々の様子を記録し、特に情報の共有を必要とすることについては、専用の記録を行い、介護記録に反映させ実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望や現状に応じたサービスの提供、活用が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練や運営推進会議などを実施し、地域との協力体制を築き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き取り、これまでのかかりつけ医師との関係を断つことなく過ごせるよう支援している。 また、医師との連携を取りながら、適切な医療が継続的に受けられるよう支援している。	内科は、事業所の協力医療機関から定期的に往診を受けている利用者が多い。その他の科の受診や大病院の通院・検査は家族に協力を得る時もあるが、状況によっては、事業所でも送迎・付添いの支援をし、本人・家族の希望に沿うよう努力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内での健康管理は看護師を中心に、常に報告相談が行える体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し、担当医師や看護師と情報交換を行っている。また、ご家族との連絡も密に行い、入退院がスムーズに行えるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、事業所で行える行為を説明し、本人、家族の意向や希望を確認、主治医と相談しながら対応している。	入居時に終末期の対応について説明し、家族の希望があれば、看取りを実施している。事業所として対応できる範囲は理解しているが、現実に重度化し、医療依存度が高くなった場合の終末期のあり方について真剣に向き合っている。	今後、医療機関との連携を深め、医療面の充実を図るとともに、高い意識を持った職員の理解と協力で、その人らしい自然な最期を迎えられるような事業所となることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、看護師を中心に、必要に応じて職員に対して緊急対応の助言を、現場の活動を通して行いながら、実践力が身に付くよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、定期的に緊急時の対応を確認できるよう働きかけている。また、地域住民の方にも声をかけ、協力をお願いしている。	年2回避難訓練を実施しており、夜間や水害を想定した訓練も行っている。緊急時は自治会長にも協力をお願いしており、施設長や男性職員を含め計6名は必ず駆けつける協力体制ができている。建物は、火災に対してはスプリンクラー・防火壁が設置されている。3日分の食糧・おむつ等の備品も備えられている。	緊急時は事業所だけでの対応には限界があることから、近隣住民の協力・支援が得られるような関係づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬しながら、誇りやプライドを損ねない対応を行っている。 特に排泄や入浴時には尊厳を傷つけないよう対応している。	それぞれの職員は、さりげない言葉かけや自然な対応で、誇りやプライドを損ねないように努めている。職員の気になる言葉遣いや態度は、お互いに注意して直している。排泄時のドアの開閉、入浴時の洋服を脱いだ時の対応など、気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で常にご本人が選択できる環境を整え、自分で選び、決めるという喜びを感じられるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況に応じた活動を提案はするも、ご本人の意向を大切にし、個々のペースで生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴を把握し、その人らしくおしゃれができるよう支援している。 また、定期的に美容師の訪問があったり、女性であれば化粧、男性ならば髭剃り等を行える環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みは職員が把握しており、細かな献立の工夫が行えている。利用者様と職員は、できる範囲で一緒に準備や片づけを行っている。	小規模多機能の事業所で一括して調理して配食されている。1食で10品目摂取を目標としており、品数・食材とも充実している。噛むことを重視し、食材は普通に近いものを意識し、ペースト食・刻み・あら刻みのお膳も彩りよく盛り付けられ、目でもおいしさを感じられる。洗いや食器拭きはできる利用者が手伝っている。	食べることは一番の楽しみなので、メニュー表の作成やメニューの説明など、より楽しめるような工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い、少ない方に対しては、その都度、補食など、必要な栄養が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、適切な支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導を行い、失敗を減らし排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立の人からおむつの人まで様々だが、排泄チェック表や時間で誘導して、基本的にはトイレで排泄できるよう支援している。夜間はポータブルトイレを使用している人もいる。その結果、清潔が保持できたり、排便のコントロールができるようになった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事内容など、便秘予防への対応とセンナ茶の飲用により、服薬に頼らない排泄を個々に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴にて、ゆっくりとご本人のペースで入浴できるよう、午前午後と本人の意思を尊重した入浴サービスを行っている。	個浴と特浴を整備している。週3回、1日かけてほとんどの利用者が入浴している。基本的に脱衣場でも1人ずつ、浴室では浴槽に入ってもらよう支援しており、時には職員が複数で対応している。拒否する人には、無理強いはしていないが、できるだけ入ってもらえるように努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の心身の状況や習慣に合わせた対応をしている。 また、職員は室温調整にも気を配り、寝やすい環境を提供できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師処方薬の内容はファイルし、担当職員から他の職員に伝達し、内容の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた内容を、職員とともに活動できるよう支援している。(野菜の収穫、花作り、洗濯、散歩、買い物、外食)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩、畑作業等、個々の希望に沿って支援している。また、季節を感じていただけるよう、季節の花の見学、外食、昔馴染みの地域の訪問など、一緒に外出できるよう支援している。	日常的には、事業所の周りの植物に水やりしたり、散歩や田圃の横にある直売所で野菜の買い物をしている。車いすの人は外気浴したり、ドライブして外食や公園へ出かけている。行事として、その時期に合わせてお花見に何度か行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望やご家族と相談の上、状況に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿うよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着き、安心して生活ができる空間作りを心がけている。また、季節を感じていただけるよう、館内の飾りを行う工夫をしている。	居室のドアはガラス戸(一部透明)のため、居間から三方の外が見渡せ、明るく開放的である。玄関、廊下、居間は清潔で広く、ゆったりとしたソファーだけが配置され、すっきりと片付けられている。トイレ、お風呂が居間に直接面しているが、広いため出入りが気にならず、安心して落ち着いて過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間、椅子、ソファーなどの配置を状況に応じて変え、思い思いに過ごせる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望などを聞き取りながら、使い慣れた物や、好みの物を持って来られることで安心して過ごせるよう工夫している。	クローゼットとベッドは整備されている。自宅で使い慣れた家具や生活用品を置き、利用者それぞれの個性を活かして、安心して過ごせる居室になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂等の場所の表示を行い、館内の移動がご本人自らの意思で行動できる工夫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り時に復唱することで、理念を自分自身の行動に活かしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議やボランティアの受け入れ等により、少しずつではあるが地域の方との交流が増えてきた。また、散歩の時などにも挨拶をすることで、日々の交流の機会を増やしている。 また、自治会の活動にも可能な限り参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などを中心に、随時、支援方法等、地域で役割が持てるよう努力している。 先日は認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターの方々と開催した。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告等を行いながら、ご家族等の参加者の意見を取り入れながら、随時、サービスの見直しを行っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から意見交換を積極的に行い、相談や助言をいただくことで協力関係を築けるよう取り組んでいる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全・防犯のために玄関の施錠は行っているが、身体拘束については、マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	独自のマニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できる状態にある。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し、学ぶ機会を持っている。アセスメントなどで個々の必要性については話し合い、活用できるよう支援を行っている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームでの生活の説明、終末期のケア等を含め、相談の段階より伝えることで理解を図っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には近況報告を行い、その時に出た意見や要望に素早く的確に対応できるよう努めている。また、意見箱の設置も行っている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じ、適時ミーティングを行うことで意見を出し合い、それを基に行事計画等、運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや個人面談を行いながら、一人ひとりの状況に合わせ、目的を持ち、やりがいのある仕事にできるようにしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に合わせた研修への参加を行い、希望者は参加できる体制をとっている。必要な者には個別研修の機会を設けている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で研修をおこなったり、相互評価を行うことで交流を深め、良いところは取り入れることにより、サービスの向上に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に時間をかけ、アセスメントや担当者会議を行うことで、本人、家族の要望を把握し、見学や体験利用を通し、スムーズにサービスに繋がるよう心がけている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの説明を十分にした上で、希望や不安点を伺い、利用形態の提案を行うことで良い関係が築けるよう努めている。利用前に体験利用を行うなど、その方の状態に合わせて対応している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、その人にあつた必要なサービスが提案、提供できるよう努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各種行事や活動を一緒に行いながら、利用者様の知恵や知識を職員は学び、共に生活することの喜びを共有しながら過ごしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内での生活の状況を伝えたりしながら、家族と事業所が協力して、利用者様が有意義な生活を送れるよう支援しています。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊の支援を行い、面会時には家族との時間がゆっくりと持てる環境を提供している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域における利用者様同士の関係を把握し、互いに関われるよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談依頼は継続的に関わり、適時支援をしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でゆっくりと向き合える時間を作り、なにげない言葉や表情を読み取り、本人の思いに添えるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人、家族の話から得た情報を職員間で共有し、可能な限りサービスに取り入れ、環境の大きな変化がないよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族等、関係者の方から十分な確認を行っている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、随時関係者の意見を取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて日々の様子を記録し、特に情報の共有を必要とすることについては、専用の記録を行い、介護記録に反映させ実践している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望や現状に応じたサービスの提供、活用が行えるよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練や運営推進会議などを実施し、地域との協力体制を築き支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き取り、これまでのかかりつけ医師との関係を断つことなく過ごせるよう支援している。 また、医師との連携を取りながら、適切な医療が継続的に受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内での健康管理は看護師を中心に、常に報告相談が行える体制が整っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し、担当医師や看護師と情報交換を行っている。また、ご家族との連絡も密に行い、入退院がスムーズに行えるよう対応している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、事業所で行える行為を説明し、本人、家族の意向や希望を確認、主治医と相談しながら対応している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、看護師を中心に、必要に応じて職員に対して緊急対応の助言を、現場の活動を通して行いながら、実践力が身に付くよう指導している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、定期的に緊急時の対応を確認できるよう働きかけている。また、地域住民の方にも声をかけ、協力をお願いしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬しながら、誇りやプライドを損ねない対応を行っている。 特に排泄や入浴時には尊厳を傷つけないよう対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で常にご本人が選択できる環境を整え、自分で選び、決めるという喜びを感じられるような支援を行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況に応じた活動を提案はするも、ご本人の意向を大切に、個々のペースで生活が送れるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴を把握し、その人らしくおしゃれができるよう支援している。 また、定期的に美容師の訪問があったり、女性であれば化粧、男性ならば髭剃り等を行える環境を作っている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みは職員が把握しており、細かな献立の工夫が行えている。利用者様と職員は、できる範囲で一緒に準備や片付けを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い、少ない方に対しては、その都度、補食など、必要な栄養が摂取できるよう支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、適切な支援を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導を行い、失敗を減らし排泄の自立に向けた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事内容など、便秘予防への対応とセンナ茶の飲用により、服薬に頼らない排泄を個々に取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴にて、ゆっくりとご本人のペースで入浴できるよう、午前午後と本人の意思を尊重した入浴サービスを行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の心身の状況や習慣に合わせた対応をしている。 また、職員は室温調整にも気を配り、寝やすい環境を提供できるよう努めている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師処方薬の内容はファイルし、担当職員から他の職員に伝達し、内容の把握に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた内容を、職員とともに活動できるように支援している。(野菜の収穫、花作り、洗濯、散歩、買い物、外食)
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩、畑作業等、個々の希望に沿って支援している。また、季節を感じていただけるよう、季節の花の見学、外食、昔馴染みの地域の訪問など、一緒に外出できるように支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望やご家族と相談の上、状況に応じて対応している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿うよう対応している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着き、安心して生活ができる空間作りを心がけている。また、季節を感じていただけるよう、館内の飾りを行う工夫をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間、椅子、ソファなどの配置を状況に応じて変え、思い思いに過ごせる空間作りを行っている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望などを聞き取りながら、使い慣れた物や、好みの物を持って来られることで安心して過ごせるよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂等の場所の表示を行い、館内の移動がご本人自らの意思で行動できる工夫を行っている。